

週日の説教

金 大烈 神父 2009年4月21日(火)

《靈的な価値で生きましょう》

今日の第一朗読(使徒言行録 4・32 - 37)では、イエス様が復活されてから、イエス様の復活を体験し、信じる人々の集まり、いわゆる教会が始まる話が紹介されています。その始めの共同体の生き方について、何日か前からずっと紹介されています。ほとんどの物語は "使徒言行録" に書いてあります。今日の紹介では、「人々は自分の個人的な物を全部売って、そのお金を使徒たちの前に持って来た。そして必要なものがあればお互いに分ち合って、貧しい人は一人もいなかった。」ということが書かれています。

これと全く同じ形を借りているいろいろな人々をだまし、そのような社会を作りましょうと言いながら作られたものが共産主義です。マルクスや有名な共産主義者がもとなり、今でも共産主義とか社会主義というシステムの国がまだ残っています。聖書によれば「一人も貧しい人がいなかった」のに、聖書の言葉どおりに行った共産主義がなぜ失敗したのでしょうか。その理由は、共産主義の真ん中には人間の欲望の池があったからです。その中には、イエス様がおっしゃった神様に対しての信仰と人間に対しての尊厳性が無かったからです。だから失敗するのは当然なことだったのかもしれない。人間の関わりは必ず欲を作ります。欲と欲がぶつかる時には強い欲が必ず弱い欲を喰います。これが世界の歴史です。それを認めないで共産主義を作ろうとしたから、このようになったのです。

2000年前にキリストの復活を体験した人々の欲と言えば、イエス様と一致する生活でした。その他のことには全く希望を置いていなかったのです。だから信仰によってこのような生き方が可能になったのです。

今の時代の私たちもよく考えてみますといろいろな罪につながっています。私が罪を犯さなくても私たちは罪の中に住んでいます。自分と関わっている全ての人々が罪を犯せばその罪も自分の罪になるのが教会の教えです。ですから、もしアフリカのどこかの国で子ども達が飢え死にしていれば、その責任を感じる事が私たちの勤めではないかと思えます。しかし私たちは出来るだけそういうことに耳を傾けないようにします。なぜならば、それを考えてしまうと辛くてたまらないからです。だから、目の前に見えるものだけを見てよい世界を作ろう、よい関わりを作ろう、という考えで生きています。しかし、世の中の悪を批判することより、私たちもその悪に縛られていることを認め、その悪をなくすために、力がある限り善を実践していくことが何よりも必要ではないかと思えます。社会学者たちもはっきり言っていますね。この世の中で傾いてしまった富を公平に分配することができれば、世の中で飢えて死んでしまう子ども達は1人も生じない、と。人間の欲によって犠牲になる、たくさんの人々がいることをもう一回このミサを通して意識しましょう。

福音(ヨハネ 3・7a, 8 - 5)に入ってみます。詩的な表現ですね。

「風は思いのままに吹く。」

私たちはどうでしょうか。思いのまま動くのでしょうか。思いのまま流されるのでしょうか。思ったとおり流されたらその人は幸せですね。このように流されるとしたら大変だと思えば、あらかじめ何かすることもできますね。

皆様、絶対止まるとはいけない生活があります。それは、靈的な世界、靈的な生活、靈的な生き方です。それについて皆様が力を注がなければ、靈的な生活は止まってしまいます。必ず動かさなければなりません。私たちがこの信仰の生活をする一番大きな目的は靈的に満たされることです。それには靈的に成長しなければなりません。

今日、イエス様はニコデモに言いました。ニコデモという聖書の人物は、靈的な世界を求めた人物

です。ですから、イエス様に会うとき、いつも自分が気になることを質問する人でした。その人にイエス様がおっしゃったのは、「あなたがたは新たに生まれねばならない。」ということでした。それはどういう意味でしょうか。それは、生きる価値を置く場所を変える、ということです。なぜ生きているかを子ども達に聞いてみると、"医者になってお金をたくさんもらって、貧しい人たちを助けたい" "力のあるものになって有名になりたい"など、いろいろなところに価値を置いています。しかし、その価値を全部捨てて、新しい価値の生き方をしようとするのが、新しく生まれるということです。では、皆様は、新しく生まれたでしょうか。洗礼を受けたときに皆様は新しい生き方を始めたことを認めてください。皆様は、霊的な生命体です。それを意識しなければ、洗礼を受ける前と全く同じか、もっと悪くなるかもしれません。皆様が死ぬときまで求めなければならないことは霊的な価値であることを意識しましょう。

ありがとうございました。